

東広島バイパス・安芸バイパス 建設促進に関する要望書

国道2号東広島・安芸バイパス建設促進期成同盟会

全国的に人口減少・少子高齢化社会が到来する中において、広島広域都市圏域の経済を活性化し、自律的で持続的な発展を図るためには、ヒト・モノ・カネ・情報の循環を基調とする「ローカル経済圏」を構築する必要があります。

このため、昨年3月には広島市と圏域の23市町との間で、連携中枢都市圏形成に係る連携協約をそれぞれ締結し、「誰もが住み続けたい、住んでみたい」都市圏の形成に向け、圏域内の交流・連携の一層の強化を図っているところであり、圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超の維持を目指す「200万人広島都市圏構想」の実現のため、圏域内の広域幹線道路ネットワークの充実・強化を図ることがますます求められています。

広島市と東広島市間における主要幹線道路である一般国道2号は、沿線の都市化に伴い、交通容量をはるかに超える交通量による著しい渋滞、交通事故の多発等深刻な社会問題を引き起こしています。

このような中、東広島地域においては、都市基盤整備の進展による官民の学術研究機関の集積、先端技術型産業の進出・事業展開に伴い、広島都市圏との相互交通需要が増大しています。

また、湾岸地域においても海田湾の埋立てによる東部流通業務団地や工業団地が整備されるなど、沿線市町における産業基盤は、今後、飛躍的な発展を遂げることが期待されています。このため、地域の経済活動を支えるとともに広島空港へのアクセス向上に資する東広島バイパス、安芸バイパスの整備は緊急

かつ不可欠なものとなっています。

これらの路線は、渋滞の緩和による物流の効率化だけでなく、第三次医療施設への救急搬送時間の短縮効果があるなど、沿線住民の安全・安心な暮らしにも寄与するものです。

このうち、東広島バイパスについては、平成10年9月に海田ランプ橋（海田町南堀川町～南昭和町）が完成し、平成18年3月から平成26年3月にかけて海田東インターチェンジ（海田町浜角）から瀬野西インターチェンジ（安芸区瀬野南町）までが暫定2車線で順次供用開始され、現在は海田高架橋の整備に取り組まれています。

また、これらの路線については、全線の早期完成を目指して、土地収用法の手続きを行いながら整備が進められています。

このように、事業が着実な進展をみておりますことは非常に喜びであり、御当局の取り組みに対し、心から感謝いたします。

今後とも、地元経済界と関係自治体が総力を結集し、強固な連携のもと事業が円滑に進むよう取り組んでまいりますので、国におかれましては、**東広島バイパス（海田高架橋など）及び安芸バイパスの早期完成**を図られるよう、よろしくお願いいたします。

平成29年 月 日

国道2号東広島・安芸バイパス建設促進期成同盟会

会長 広島市長 松 井 一 實



国道2号東広島・安芸バイパス
建設促進期成同盟会会員

会長	広島市長	松井一實
副会長	海田町長	西田祐三
会員	東広島市長	藏田義雄
〃	広島市議会議長	永田雅紀
〃	東広島市議会議長	牧尾良二
〃	海田町議会議長	桑原公治
〃	(一社)中国経済連合会会長	苅田知英
〃	広島商工会議所会頭	深山英樹
〃	東広島商工会議所会頭	木原和由
〃	広島安芸商工会会長	吉田栄二
〃	広島経済同友会代表幹事	池田晃治
〃	広島県経営者協会会長	西川正洋

(順不同)

東広島バイパス・安芸バイパス

